

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

本資料は、文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。
下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

- ◆ここに示されているものは、あくまで例であり、これ以外は「合理的配慮」として提供する必要がないということではありません。
- ◆複数の障がいを併せ有する場合には、各障がい種別に例示している「合理的配慮」を柔軟に組み合わせ検討しましょう。
- ◆記載していない項目についても、「合理的配慮」として提供する必要がないというものではありません。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて検討しましょう。

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと） 学習障がい

※文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

◎読み書きや計算等に関して苦手なことをできるようにする、別の方法で代替する、他の能力で補完するなどに関する指導を行う。

- ・文字の形を見分けることができるようにする。
- ・口頭試問による評価をする。
- ・字形が整わないことを容認し努力を認める。
- ・I C T機器を活用した学習補助を取り入れる。 等
- ・書く分量を軽減する。
- ・読めない場合に問題文を読み上げる。

①-1-2 学習内容の変更・調整

◎「読む」「書く」等特定の学習内容の習得が難しいので、基礎的な内容の習得を確実にすることを重視した学習内容の変更・調整を行う。

- ・習熟のための時間を別に設定する。
- ・リーディングルーラーを活用させ読みやすくする。
- ・穴埋め式のワークシートを利用して書く量を調整する。 等
- ・軽重をつけた学習内容の配分をする。
- ・ノートの升目を拡大する。

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

◎読み書きに時間が掛かる場合、本人の能力に合わせた情報を提供する。

- ・文章を読みやすくするために体裁を変える。
- ・振り仮名をつける。
- ・聴覚情報を併用して伝える。
- ・1時間の学習内容が捉えやすい板書をする。
- ・画用紙や模造紙に必要なことをまとめて分かりやすく示す。 等
- ・拡大文字を用いて資料を作成する。
- ・音声やコンピュータで読み上げる。
- ・文字の大きさや色を考えた板書をする。

①-2-2 学習機会や体験の確保

◎身体感覚の発達を促すために活動を通した指導を行う。

- ・体を大きく使った活動を通して指導を行う。
- ・様々な感覚を同時に使った活動を通して指導を行う。
- ・点つなぎや迷路などの学習を通して指導を行う。 等

◎活動内容を分かりやすく説明して安心して参加できるようにする。

- ・話すことに不安を感じる時は、話し方を確認する時間を持つ。 等

①-2-3 心理面・健康面の配慮

◎苦手な学習活動があることで、自尊心が低下している場合には、成功体験を増やしたり、友達から認められたりする場面を設ける。

- ・文章を理解すること等に時間が掛かることを踏まえた時間延長をする。
- ・必要な学習活動に重点的な時間配分をする。
- ・受容的な学級の雰囲気作りをする。
- ・困ったときに相談できる人や場所を確保する。
- ・黒板には指示カードを用意し口頭での指示と併せて目視でも確認できるように配慮する。 等

②-1 専門性のある指導体制の整備

◎特別支援学校や発達障がい者支援センター、教育相談担当部署等の外部専門家からの助言等を生かし、指導の充実を図る。また、通級による指導等学校内の資源の有効活用を図る。

- ・巡回相談や専門家チームを活用する。
- ・定期的にケース会議を持ち、情報共有するとともに必要な合理的配慮について検討を重ねる。 等

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

◎努力によっても変わらない苦手なことや生まれつき得意なこと等、様々な個性があることや特定の感覚が敏感な場合があること等について、周囲の幼児児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

- ・関係する教職員が集まって情報交換会を行う。 ・保護者対象の研修会を行う。
- ・関係者が集まって支援会議を行う。
- ・教職員や保護者向けの書籍・教材を購入・貸出しをする。 等

②-3 災害時等の支援体制の整備

◎指示内容を素早く理解し、記憶することや、掲示物を読んで避難経路等を理解することが難しい場合等を踏まえた避難訓練に取り組む。

- ・具体的で分かりやすい説明をする。
- ・避難訓練を継続して行い、慣れることで不安を軽減できるようにする。
- ・避難経路や避難方法をあらかじめ知らせておく。必要があれば視覚化して示す。 等

③-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

◎類似した情報が混在していると、必要な情報を選択することが困難になるため、不要な情報を隠したり、必要な情報だけが届くようにしたりするなど校内環境を整備する。

- ・余分な物を覆うカーテンを設置する。 ・余分な情報を排除し分かりやすい表示をする。
- ・落ち着いて学習に取り組むための教室環境を整備する。 等